



- ① CD科の目標
- ② CD科の各領域の目標と指導事例
- ③ 実際指導の方法（内容の取り扱い）
- ④ CD科の評価
- ⑤ 新「学習指導要領」とCD科

コミュニケーション・デザイン科 の開発

協働的な課題解決を支える思考・判断・表現の力を育てる

H29

お茶の水女子大学附属中学校

1. コミュニケーション・デザイン科とは？

教科目標

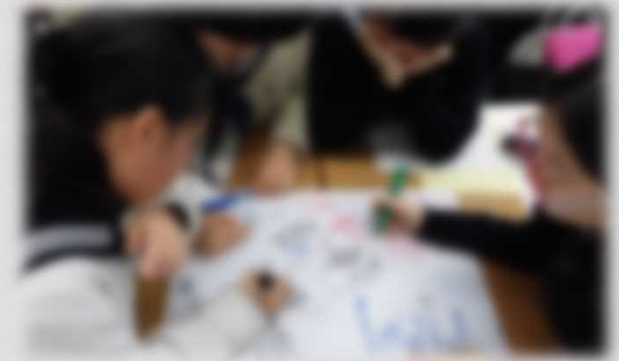
よりよい社会の実現に向けた課題発見・解決・探究のために、様々なツールを活用して思考・発想し、他者と対話・協働しながら、思いや考えなどを伝達・発信するための統合メディア表現を工夫して、効果的なコミュニケーションを創出する能力と態度を育てる。

三つの領域

A 論理・発想

B 対話・協働

C 伝達・発信



2. CD科の内容

「A 論理・発想」領域の目標と内容

社会の課題の協働的解決において、論理的に思考したり、豊かに発想したり、課題解決のプロセスを俯瞰的に捉えることの価値を理解するとともに、その能力と態度を伸ばす。

- (1) ア 思考の基礎操作
 - イ 論理思考の基礎
 - ウ 問題解決の思考
- (2) 思考・発想・表現を効果的に支える可視化・操作化のツール・手法の例

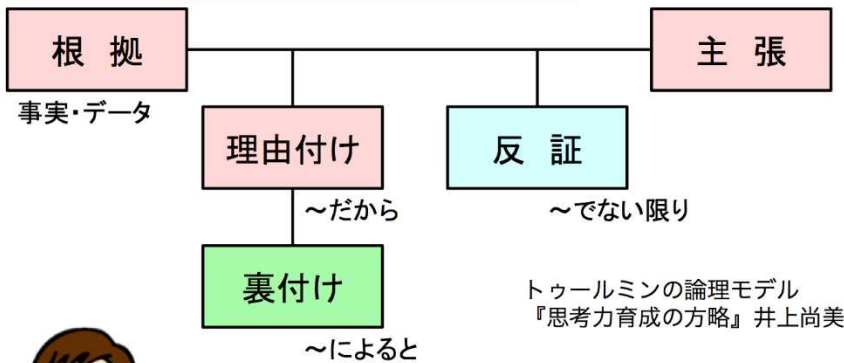


2. CD科の内容

「A論理・発想」の指導事例

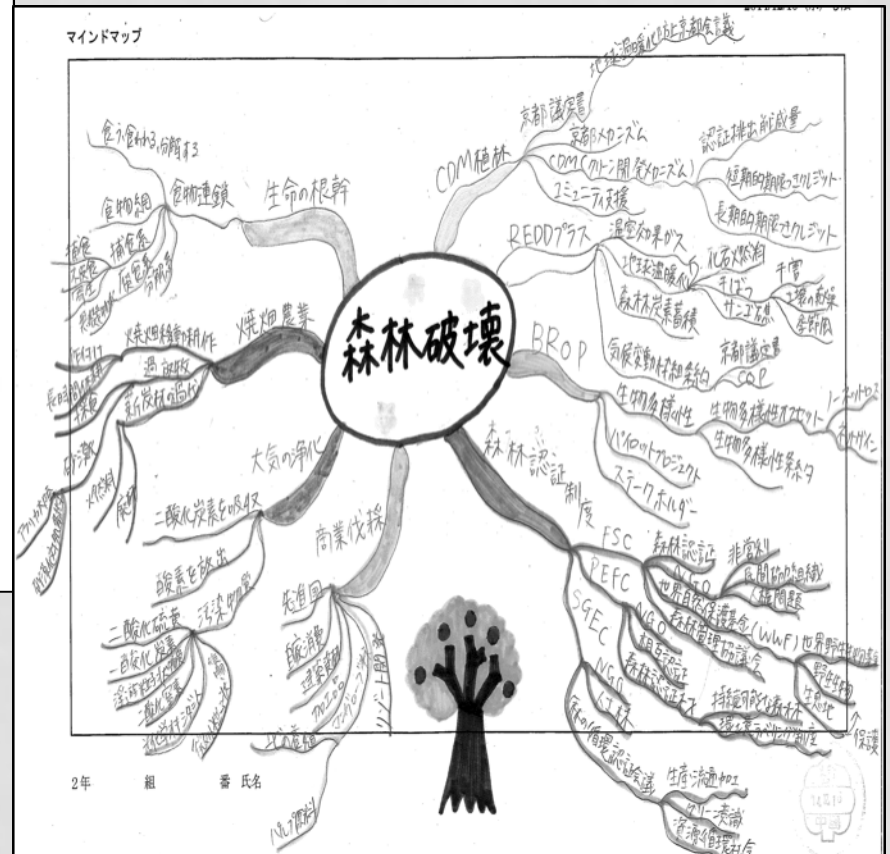
「論理的に考える」ために

トゥールミンの論理モデル



イ論理思考の基礎 (イ) 判断を構成する要素

ア思考の基礎操作 (イ) 多面的に思考・発想



2. CD科の内容

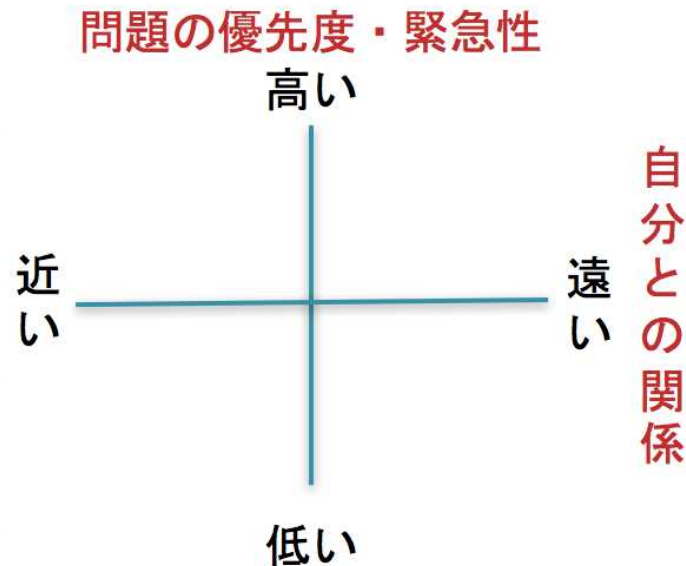
「A論理・発想」領域の指導事例

Task (課題) 2

考えてみよう！社会や地球の問題

成田さんの問題を座標軸に位置づけてみよう

災害	環境	平和
資源・エネルギー	差別・偏見	経済格差
病気	食・薬品・薬物	世界遺産・地域遺産
信仰・宗教	ICT	犯罪・事件
いじめ・体罰・虐待	人口爆発・超高齢社会	



ウ問題解決の思考
(エ) 評価の軸を設定して判断

2. CD科の内容

「B対話・協働」領域の目標と内容

社会の課題の協働的解決において、自他を生かし、温かみのある対話をし、円滑に討議を進めることの価値を理解するとともに、その能力と態度を伸ばす。

- (1) ア 対話・話し合いの基礎
 - イ 対立の解決・解消
 - ウ 外部との交渉
- (2) 効果的な話し合いの方法やツールの例



2. CD科の内容

「B対話・協働」の指導事例



CD科で文化祭の準備計画
をたてている1年生

ア対話・話し合いの基礎
(ウ) 目的・目標と論点

18/1/12

大学図書館に交渉して
資料を設置する2年生



ウ外部との交渉
(イ) 交渉方法の工夫

2. CD科の内容 「B対話・協働」の指導事例

CD科における調停の授業の実際

調停人



班中活動



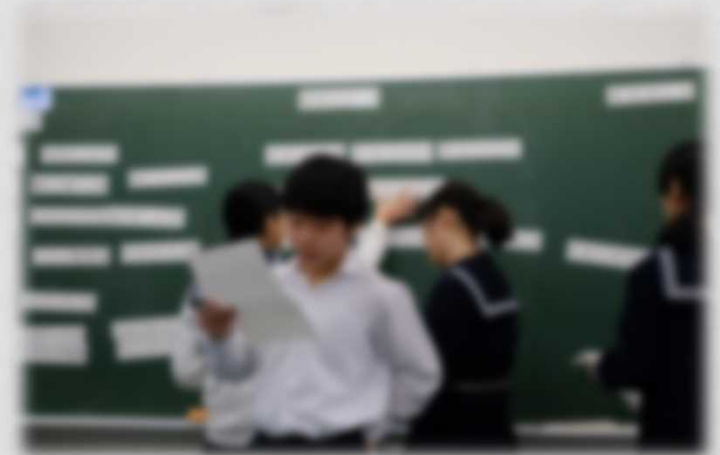
班員が調停人（2名）、Aさん、Bさん、Cさん役に分かれて互いの言い分を聞き取り、皆が納得できる調停案を考える。

2. CD科の内容

「C 伝達・発信」領域の目標と内容

社会の課題の協働的解決において、伝達・発信する内容の構成を工夫し、方法を吟味し、視覚化などの表現手段を活用する価値を理解するとともに、その能力と態度を伸ばす。

- (1) ア 情報収集と情報共有
イ 戦略的な表現
- (2) 情報収集・伝達・発信の
ツールや手法の例



2. CD科の内容

「C伝達・発信」の指導事例

掲示物をつくろう!!
～相手に伝わる見やすい掲示物を考え、話し合い、つくってみよう!～

CD科

★文字の大きさや太さ、書体に変化をつける (特に重要になるところは、他との差をつけてみましょう。)



合鍵のタイトルとなるところや構構には、長さと変化をつけると、目が引かれているものなのが見えやすくなります。

係 係

例えば、同じ「係」という文字も、大きさや書体の違いでこんなに変化が出ます。

係 係 係

★色に変化をつける (たくさんの敷料があります。どのようにしたらより分かりやすくなるか、工夫しましょう。)



マゼックペンの色を変えて書いたり、文字の色は同じでも色紙を変えたりするなどの工夫で敷料ごとに分けておくと、とても見やすくなります。



★内容が分かりやすくなるように、関連した絵や色画用紙などで楽しく飾り付ける



★文字をただ書くのではなく、その文字のイメージを絵にして書くことで、相手へ伝わりやすく、更に見るのが楽しくなる効果があります。



自主研究の講堂発表

効果的な表現を学んで掲示物を作成

2. CD科の内容 「C伝達・発信」の指導事例



プロに学んで
ポスターを
駅に掲出

3. CD科の実際指導の方法

三つの指導方法で定着を図る

ア CD基礎

取り立て的なワークショップ型
学習による基礎指導

イ CD活用

プロジェクト型学習やテーマ探究
学習を通じた活用指導

ウ 教科等との連携

教科や自主研究と連携した基礎
および活用指導



3. CD科の3つの指導方法

ア. 【CD基礎】の指導

1～4時間のミニ単元
体験&ワークショップ型



3. CD科の3つの指導方法

CD科の指導時数はこう生み出す

【平成29年度教育課程 年間授業時数表】

	各教科の授業時数									新設教科	自主研究	道徳	学総 習合 の的 な	特別活動	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	体育	技家	英語						
第1年 増減	134 -6	102 -3	136 -4	102 -3	48 +3	48 +3	102 -3	67 -3	136 -4	70 +70	35 +35	35 0	0 -50	35 0	1050 +35
第2年 増減	136 -4	102 -3	102 -3	137 -3	35 0	35 0	102 -3	69 -1	137 -3	75 +75	50 +50	35 0	0 -70	35 0	1050 +35
第3年 増減	104 -1	139 -1	139 -1	139 -1	35 0	35 0	105 0	35 0	139 -1	75 +75	35 +35	35 0	0 -70	35 0	1050 +35
計 増減	374 -11	343 -7	377 -8	378 -7	118 +3	118 +3	309 -6	171 +4	412 +8	220 +220	120 +120	105 0	0 -190	105 0	1050 +35

3. CD科の3つの指導方法 時間割とCD科の授業の運用

平成29年度 3年松組 前期時間割

平成29年4月～

	時 程		月	火	水	木	金
	通常	〇時程					
1校時	8:40 ↓ 9:30	8:40 ↓ 9:20	理科 山本	総カリ 戸谷	英語 加藤	国語 戸谷	体育 佐藤
2校時	9:40 ↓ 10:30	9:30 ↓ 10:10	数学 松本	技家 平地・有友	社会 寺本	英語分割 服部吉川パワー	数学 松嶋
3校時	10:40 ↓ 11:30	10:20 ↓ 11:00	体育 君和田・小安	英語 加藤	数学 松本	数学 松本	理科 山本
4校時	11:40 ↓ 12:30	11:10 ↓ 11:50	音楽 中山	社会 木村	理科 小山	体育 君和田・小安	英語 加藤
5校時	13:20 ↓ 14:10	12:40 ↓ 13:20	社会 木村	理科 山本・竹村	総カリ 戸谷	美術 桐山	総カリ 戸谷
6校時	14:20 ↓ 15:10	13:30 ↓ 14:10	国語 戸谷	国語 戸谷	総カリ 戸谷	社会 木村	総カリ 戸谷

教科を削減して実施
→ 当該教科の時間に
教科担当者が
指導案を作成して
授業を行う

総合を削減して実施
→ 総合カリキュラム
の時間に
学年担任団が
指導案を作成して
授業を行う

3. CD科の3つの指導方法

イ. 【CD活用】プロジェクト学習の様子



附属小の児童の前で、
お米の由来を説明 ←



3. CD科の3つの指導方法

イ. 【CD活用】プロジェクト学習の様子



被災地の中学校とスカイプ交流で、支援に関する意見交流

被災地の商品を文化祭で委託販売

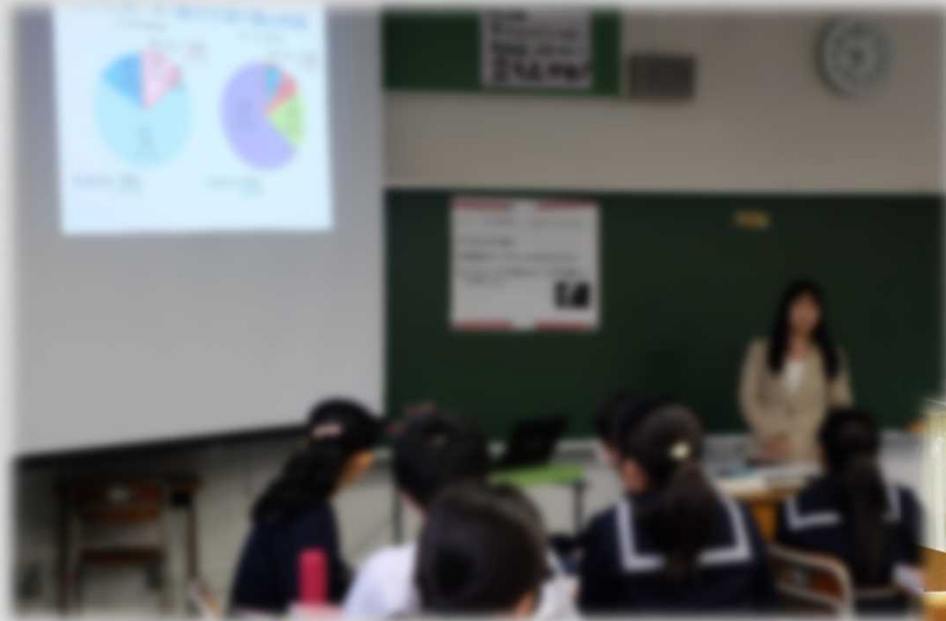


3. CD科の3つの指導方法

イ. 【CD活用】さまざまな単元例

自分たちが気づいたプロジェクト展開のコツを、
後輩達に引き継ぐ

「HowTo本」



テーマ「いのちを考える」
動物の殺処分をめぐって、
調べ、考えて発信する。



3. CD科の3つの指導方法

CD基礎とCD活用

3年生

2年生

1年生



3. CD科の3つの指導方法

ウ. 各教科・自主研究等との連携

教科等の学習の中で

CD科の学習を想起して活用
CD科の単元と連動して展開

教科					総合カリキュラム		
国	数		技術	英	道	特	自主
コミュニケーション					デザイン		研究
語	学		家庭	語	徳	活	究



教科（英語）



自主研究

CD科

教科等横断的に学習効果を高める工夫

ア CD基礎による取り立て的なワークショップ型学習による基礎指導

- ・どのスキルやツール等の学習をするのかを明確にする。
- ・取り上げたスキルやツール等の習得の必要性・有効性が感じられる学習課題の設定や展開を工夫する。
- ・ワザカードを用いるなど、取り上げたスキルやツール等の実生活・実社会での活用場面を描きつつ学習を繰り返すワザ化を促す。

イ CD活用によるテーマ探究学習による活用指導

- ・生活や社会とつながる真正性のある課題を取り上げ、何を達成すればよいかの明確化を図る。
- ・CD基礎で学んだスキルやツール等の複合的・統合的活用が起こる学習活動・場面を設定していくように配慮する。
- ・CD基礎で学んだスキルやツール等の自覚的・選択的な活用を促すよう、学習の展開や指導の手立てを工夫する。
- ・学習を進める中で、生徒たちがCD基礎で学んだスキルやツール等を活用しているかどうかを評価するように計画していく。

ウ 教科および自主研究と連携した基礎および活用指導

- ・生徒たちが対話し協働して解決する必要がある（したくなる）学習課題を、教科等の学習指導に積極的に取り入れる。
- ・教科等の指導に当たっては、CD科で学ぶスキルやツールの習得・活用との意識的な関連づけに配慮する。その際には、「教科等の学習でCD科の学習効果を高める」という場合と、「CD科の学習を活用することで教科等の学習の効果を高める」という場合とがあることに留意し、そのどちらが主であるかを自覚しつつ指導を展開する。
- ・教科等の指導や学校生活の中の様々な場面で、CD科学習の成果と結びつけた積極的な評価の言葉掛けを行い、CD科を学ぶ効力感を高めていくようにする。



各学年の指導計画の作成にあたって

1年 校内のプロジェクト（含：生徒祭）の遂行を通して、主として仲間とのコミュニケーションをデザインしつつ課題解決を経験できるよう単元開発・指導の計画を立案する。

「B 対話・協働」¹の指導にあたっては、さまざまな話し合いの仕方を学び、活用することを重点にする。

「C 伝達・発信」の指導内容としては、掲示やポスターなど、写真と言葉の組み合わせによる伝達発信を、校内や身近な社会に向けて行うことを重点とする。

2年 視野を社会に広げ、主として仲間とコミュニケーションをデザインしつつ、外部に向かって発信する経験できるよう単元開発・指導の計画を立案する。

「B 対話・協働」の指導にあたっては、1年で学んださまざまな内容の活用を促していく。

「C 伝達・発信」の指導内容として、ポスター等を通して社会への発信を行うことに加え、動画編集について学ぶ機会を取り入れていくようにする。

3年 広く社会の問題について取り上げ、外部の人とのコミュニケーションをデザインする経験を通して、提案や交渉による課題解決を経験できるよう単元開発・指導の計画を立案する。

「B 対話・協働」の指導にあたっては、既習の方法を生徒たち自身が「選択的に活用」できるように配慮する。

「C 伝達・発信」の指導内容としては、ポスター等静止画と言葉の組み合わせによる伝達・発信と動画表現（映像・言葉・音楽等）による伝達・発信とを生徒たち自身が選択的に活用できるよう配慮する。

CD科の学習評価

評価の観点

「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「態度」

評価の手順

- ア. 教科の目標、領域・学年の目標から勘案し、指導内容を設定する。
- イ. 指導事項に沿った年間の指導計画を作成する。
- ウ. 年間指導計画から、単元の授業で育成する指導事項を焦点化し、学習指導案を作る。
- エ. 授業の中での生徒の姿を想定し、評価に用いる課題、評価規準を設定する。
- オ. 上記エに沿って評価資料を選定し、評価を実施する。

表3 観点「思考・判断・表現」の学習状況の評価するための汎用ルーブリック

		論理・発想	対話・協働	伝達・発信	
C(力を要する)		Bに達していない状態	Bに達していない状態	Bに達していない状態	
B	合格	【論理的思考】 課題に対し新しい発想を整理することが出来る。	【論理的思考】 情報から、考えられた発想を用いて論理的に考え、根拠に基づいて結論を導くことができる。	誰かの見解を認識し、自分と異なる意見も尊重して対話に参加している。	伝えたいことを認識して、視覚化などの表現手段を用いて、発信している。
A	達人	さらに…… 自分の発想による課題解決に挑んでいる。	さらに…… 異なる方法から検討して課題解決に挑んでいる。	さらに…… 独自の意見と関連させた自分の意見を述べ、対話をよりよいものとしている。	さらに…… 視覚化などの表現手段を工夫している。
S	ここまで目指そう!	さらに…… 従来の発想では無い課題に対して、自分の発想を活かして課題を解決している。	さらに…… 全ての根拠が説得力のある妥当なものとなっている。	さらに…… 自身の意見を積極的に組み合わせて対話し、対話によって集団の考えを発展させている。	さらに…… 相手に伝えたいことを的確に伝えている。
学習領域の目標		社会の課題の創造的解決において、論理的に思考したり、事実に発想したり、課題解決のプロセスを俯瞰的に捉えることの価値を理解するとともに、その能力と態度を伸ばす。	社会の課題の創造的解決において、多様な見解を聞き、共通的に対話を工夫し、円滑に討議を進めることの価値を理解するとともに、その能力と態度を伸ばす。	社会の課題の創造的解決において、伝達・発信する内容の構成を工夫し、方法の吟味し、視覚化などの表現手段を活用する価値を理解するとともに、その能力と態度を伸ばす。	



CD科の学習評価

【 】月【 】日()授業名「研究課題の選び方～発想法ツール～」

ワザ: 関心を広げて、テーマを絞る!

こんな時に... 研究の課題・テーマを決定するとき → **コレを使う!!** → こんな効果が!

自分の興味関心の対象を目的に合わせて広げ、その中から今最も適しているテーマに絞ることができる。
→ 選択肢に幅が広い、正しい判断になる

こんなことに活用できそう!!

- 自主研究の課題 **決定**
- レポートなどの課題 **決定**
- 校外学習などの目標・行動計画の具体化

① イメージマップ (ウェブング)

大きなテーマ

- どんどん連想されるものを放射状に書く
- 発想に制限をかけない
- ★ 関連や共通を色・つながりで表そう!

② 態手チャート

大きなテーマ

連想

- 「視点」「発想の数をあらかじめ決めておくことできる
- ★ 目的の条件に適したテーマを見つけよう!

発想が十分に広がったら、「今最も関心がある」「調べてみたい」「問題意識が強い」などの視点でテーマを絞ろう!

③ マンダラート

テーマ		

- 周囲のまずは具体的な内容
- ★ 目標や行動計画の具体化に応じて広げていこう!

お茶の水女子大学附属中学校 ©R.K.

ICEモデル (Young and Wilson, 2013) にも対応する「ワザカード」